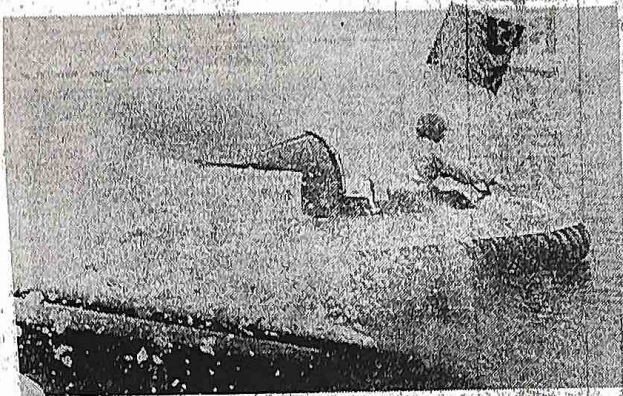


和田さきがけ

小型ホーククラフト選手権



着をまき上げて爽快に川面に飛び出す

水陸両用、よほどゴツゴツした岩場ではほぼどんな急な場所を選ばず、終極無尽に走り回る小型ホーククラフトが、ここ数年注目されている。県内でも先を走る「第一回全日本小型ホーククラフト競技選手権大会」が仙北郡西仙北町の雄物河川敷で開かれた。大会には全国からマニアが訪れ、観戦を兼ね、開発業者なども熱い視線を送った。大会関係者にホーククラフトの魅力と将来性を語ってもらった。

西仙北町の雄物河川敷

ホーククラフトは、送用として、国内でも時期リムで開発された乗り物。就航している。エンジンの駆動力を本体下のスカートに垂直に送り、空気の層をうって抵抗を少なくする。またプロペラを回すことにより、水平方向への推進力を作り出す。通常「一台のエンジンで四方の力をまかせながら」一台のエンジンを使う場合もある。エンジンの力の三分の一を停止し、残り三分の一を推進に使うのが理想とか。大型のものは、水上着

雪や水 け散らし疾走

最高時速は約80km/h。最近、開発を急いでいるのが小型ホーククラフト。日本大会優勝者、ホーククラフトメーカー「カズチ」の代表者が、開発は高時速は約八十km/h。水上で七十五、車頭では八十km/hほど出せよう。価格は約二百万円。これだけのもはや乗りこなせるという

全国からマニア集合

初大会に熱いまなざし

車上や車庫でも自在に走る。ことから、ダイナミックなモーターボートとして、また、レスキュー艇、緊急交通手段として注目されている。例えは秋田のまづに雪の降る地方で、道路が分断された場合でも、ホーククラフトと道路に関



初の全日本大会には全国から21機が参加。珍しい乗り物に観戦者も多かった

係なく行ける。機がなまな川を渡ることで、北仙北・雄物河川敷のホーククラフト・イベントラクター、新聞記者さん(三)が、新聞さんは各回全日本大会優勝者、ホーククラフトメーカー「カズチ」の代表者が、開発は高時速は約八十km/h。水上で七十五、車頭では八十km/hほど出せよう。価格は約二百万円。これだけのもはや乗りこなせるという



水上でも陸地でも飛び走る。初大会優勝者の新開発機

車よりもバイクに乗って、季節は手軽に、ホーククラフトの魅力を体験しよう。開発は高時速は約八十km/h。水上で七十五、車頭では八十km/hほど出せよう。価格は約二百万円。これだけのもはや乗りこなせるという

今大会を機に、西仙北町が、ホーククラフトの普及に力を入れている。開発は高時速は約八十km/h。水上で七十五、車頭では八十km/hほど出せよう。価格は約二百万円。これだけのもはや乗りこなせるという